

○水生生物モニタリング調査結果一覧（太田川F）

＜太田川F 水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
F-1	○	○	○	○	○	○

＜太田川F 現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質					底質		その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (°C)	泥温 (°C)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透視度 (cm)		
F-1	37.5975°	140.9252°	R5.12.6	09:20	09:42	10.2	10.3	砂	2.5Y3/3	なし	0.20	>50		

＜太田川F 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
F-1	37.5975°	140.9252°	R5.12.6	09:20	7.2	0.8	3.6	11.3	7.4	0.04	1.7	1	1.5	N.D. (0.0016)	0.077	0.0037

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜太田川F 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E <sub>N.H.E</sub> (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm <sup>3</sup> )	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
F-1	37.5975°	140.9252°	R5.12.6	09:42	7.0	426	21.1	1.1	1.7	2.670	16.1	22.6	40.7	9.8	5.6	5.2	0.63	4.8	4.6	230	0.31

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜太田川F 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
F-1	太田川本流	37.5975°	140.9252°	R5.12.2	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物（藻類を含む）	—	0.021	—	—	—	250	N.D. (11)	250	—
					節足動物	昆虫	カワゲラ	カワゲラ	<i>Oyamia lugubris</i>	オオヤマカワゲラ	80	0.0081	幼虫	—	—	11	N.D. (3.8)	11	—
					節足動物	昆虫	カワゲラ	カワゲラ	<i>Kamimuria tibialis</i>	カミムラカワゲラ									
					節足動物	昆虫	カワゲラ	カワゲラ	<i>Neoperla</i> sp.	フタツメカワゲラ属									
					節足動物	昆虫	トビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	85	0.013	幼虫	—	—	96	N.D. (15)	96	—
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	3	0.20	未成年	空胃	内臓除去	36	N.D. (1.8)	36	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	1	0.093	成魚	不明消化物	内臓除去	83	N.D. (3.4)	83	—
粗粒状有機物	—	—	—	—	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.21	—	—	—	25	N.D. (1.5)	25	—	

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。